



SARROWS™

Sustainability Action

ユナイテッドアローズのサステナビリティ活動

UNITED ARROWS LTD.

Carbon Footprint Report

CFP算定報告書

Crew Neck Short Sleeve Cut and Sewn
(UNITED ARROWS green label relaxing)

Goal of Study

目的

当社は、2020年4月、サステナビリティ推進の指針として5つのテーマと16のマテリアリティ(重要課題)を定めました。

今年8月には、2030年に向けた3つの活動目標：

「Circularity(循環するファッション)」

「Carbon Neutrality(カーボンニュートラルな世界へ)」

「Humanity(健やかに働く、暮らす)」

この3つのカテゴリーに紐づく数値目標を設定しました。

これらの活動目標のもと、当社の温室効果ガス排出量(Scope3)の削減に向けて、

またお客様の脱炭素化への貢献に向けた第一歩として、商品のCO₂排出量の定量化や可視化に取り組みました。

なお算定にあたっては、ISO14067を援用して自社で算定ルールを作成しております。

Target Products

対象製品

ブランド：
UNITED ARROWS
green label relaxing
(MEN)



アイテム	クルーネック 半袖 カットソー
販売価格	5,500円(税込)
素材	コットン100%
算定単位	1枚
対象とする構成要素	カットソー本体・「ブランドネーム」、「品質ネーム」、「下げ札」等 包装・梱包資材：本体に付属する「ビニール袋」等 輸送資材：商品輸送に供する「段ボール箱」等 <small>※原材料輸送に供する輸送資材は含まない</small>

Target Life Cycle

対象とするライフサイクル



Cut-off Criteria

カットオフの基準と対象

排出量のインパクトが
小さいもの

- ・1つで100製品以上に使える消耗品のCO₂排出量 (ミシンの針、掃除用具等)
- ・原材料を調達する際に活用した輸送資材や梱包資材のCO₂排出量
- ・消耗品を廃棄する際の輸送段階と廃棄のCO₂排出量 (段ボール、消耗品等)

対象商品に固有化
できないもの

- ・生産工場などの建設、生産設備の調達・廃棄に係るCO₂排出量
- ・事務部門や研究部門などの間接部門に係るCO₂排出量

インパクトが小さいと
推定されるが実態の
把握が難しいもの

- ・倉庫・店舗保管プロセスにおけるエネルギーについて調達 (発電元の燃料の採掘～精製～輸送) に係るCO₂排出量 (発電元の燃料が多岐にわたり、シナリオのモデル化が困難のため)
- ・消耗品を外部から調達する際の輸送段階のCO₂排出量 (購入先が多岐にわたり、シナリオのモデル化が困難のため)

Data Information

データ情報

収集データ源・データ品質の担保

以下の考え方に基づいて CFP 算定のための活動量・排出係数データを取得しました。

1. 必要な全てのデータ(活動量データ・排出係数データ)について一次データ(直接測定・算定したデータ)の取得可否を確認し、取得可能なものは一次データを使用しました。

2. 排出係数の二次データは以下の二次データベース等から取得しました。
 - a. IDEA Ver.3.1 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門)
 - b. IDEA Ver.2.2 (China) (国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門、一般社団法人産業環境管理協会)
 - c. 環境省 排出原単位データベース (Ver.3.2)

3. 活動量データで一次データを取得できない場合または取得が困難な場合はシナリオやデータベース(輸送距離のデータ)等を使用しました。
 - a. 輸送・使用段階の輸送距離や洗濯回数などに関して設定したシナリオ
 - b. IDEA Ver.3.1 付属資料 (7) 国間距離 (国立研究開発法人産業技術総合研究所 安全科学研究部門)

参照した PCR

なし

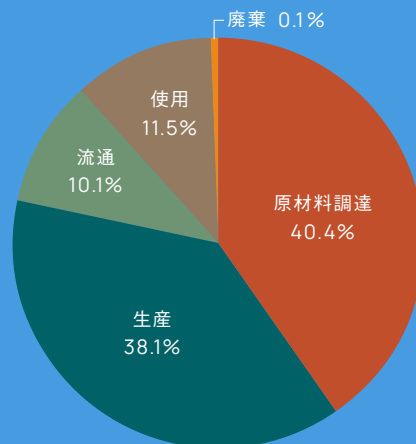
Calculation Results

算定結果

CFP

UNITED ARROWS green label relaxing クルーネック半袖カットソーの
カーボンフットプリントは 10.6476 kgCO₂-eq です。

割合



CFP : **10.6476** kgCO₂-eq

原材料調達 : 40.4%

生産 : 38.1%

流通 : 10.1%

使用 : 11.5%

廃棄 : 0.1%

※割合の数値は少数点第二位以下を四捨五入しているため合計値が100%を超えております。

Summary

まとめ

課題

- ・ サプライチェーン上流の排出削減を CFP の結果に反映させるためには、実測値の活用・拡大が課題。
- ・ 実測値を用いた算定の拡大に向けて、その目的を明確にすると共に、算定ルールの整理と優先すべき収集範囲の整理が必要。

今後について

- ・ シナリオを設定した部分については今後サプライヤーを巻き込んだ実測値やデータ取得を検討する。
- ・ 輸送トラックなどが CO₂ 排出量の少ないタイプに置き換わる等の情報収集を行う。
- ・ 店舗においては再生可能エネルギーの導入を促進する。